

全国普通科高等学校長会総会・研究協議会

10月25日（木）に東京メルパルクホールにて開催された上記の会に参加しました。大会のテーマは「普通科高等学校の創造」～高大接続に向けて、普通科高校としてどう取り組むか～です。

文部科学省初等中等教育局参事官の田村真一氏による「孤島学校教育の最近の動向について」と題した講話では、現在の文科省による高等学校に関わる教育行政の動向を説明していただきました。

また「高大接続に向けて、普通科高校としてどう取り組むか」というシンポジウムでは、4名のパネリスト（大学入試センター理事の

浅田和伸氏，早稲田大学文学学術院教授の沖清豪氏，東京都立西高校長の萩原聡氏，岡山県立林野高校長の三浦隆志氏）にコーディネーターを務めた前理事長の宮本久也氏を加えた方々で意見交換がなされました。

間近に迫っている入試制度改革や新学習指導への対応について校長としてどう取り組んでいけば良いのか，多くの示唆を得てきました。ほとんどの生徒が4年制大学進学を希望する本校においては，非常に大きな課題を含んでいるため，既にワーキンググループを立ち上げて対応策を講じているところです。今回の教育改革（変更）は，まだまだ不透明なところが多いというのが，私の印象です。今後の動向に注意を払っていきたいと考えます。大切なことは，目先の変更に振り回されること無く，本質を見極めて，生徒達の成長のために必要なことを精査しながら，我々の教育活動にブレを生じさせないようにしていくことだと思います。

